

語学研修 大きな手応え

比の提携校で野辺地西高生3人



野辺地

野辺地町の野辺地西高校(橋場保人校長)の生徒3人がこのほど、提携しているフィリピンの語学学校「CNE1」で初めて語学研修をした。参加者は将来海外でプレーするサッカー選手や通訳などの仕事を希望するサッカー部員。20日に経費の半分を補助した町役場を訪れ、中谷純逸町長に「すべて英語で課題をこなした」「小中学生に英語でサッカーを指導した」などと成果を報告した。(藤島玄)

町長に成果報告

八戸市の学校法人光星学院と子会社の八戸学院グループが2018年1月、フィリピンで学校を共同運営するカーテル科学教育財団、同財団が運営するCNE1と連携協力協定を締結。それにより野辺地西高校は同年9月から、CNE1の講師陣によるインターネットを使った「オンライン英会話レッスン」を毎週実施している。

中谷町長(左から2人目)に語学研修の成果を報告する生徒たち

月27日〜2月3日、英語技能の向上とグローバルな感性を養うために実施。石田大輝さん(2年)と、オンラインレッスンを受講する大川涼真さん、坂本紡己さん(以上1年)が参加し、サッカー部監督の三上晃教諭が引率した。

現地ではマンツーマン授業と生徒3人が一緒に行う授業があった。さらに警察署や市役所に行き、現地の治安や人口の状況などを英語で調べる課題や、小中学生15人に英語でサッカーを指導する校外授業をこなした。

町長室を訪れた生徒たちは「思い通りに伝えることができなかったが、本当に良い経験ができた」(石田さん)、「子どもたちに英語でサッカーも教えて、英語は勉強ではなくコミュニケーションツールだと気付いた」(大川さん)、「町に出て、与えられた課題をクリアできて、大きな充実感を得た」(坂本さん)などと語った。これに対し、中谷町長は「若いころから海外に出て異文化に触れることが大切。野辺地西高校としても続けてほしい」と話していた。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです